

地球益実現に向けた社理連携による南極ガバナンス国際研究拠点の構築

- 南極域が今後 100 年にわたって直面し続ける 2 つの危機に、的確に応答できる南極ガバナンス研究の拠点
- 雪氷学、南極生態学などの知見で「地球益」構想し、それを南極で実現するガバナンス的解決策を国際法学、国際関係論などで提示する社理連携研究
- 日豪韓の南極研究所を連携させ、課題発生地の西南極、南極半島、東南極の全南極域をカバー
- 3 交流拠点を基点として、欧米・南半球・アジアの南極研究者を繋ぎ、真にグローバルな交流ネットワークを構築



- 次世代南極研究者養成のため APECS や国際南極大学(IAI)を活用した若手研究者イニシアティブ
- 南極研究科学委員会(SCAR)の学際研究プログラム ANT-ICON や学術総会(OSC)などを活用した異分野共創・国際交流の機会創出
- 研究成果発表のセミナー開催の場として関連研究者や実務家が集まる Polar Law Symposium (PLS)や ATCM サイドイベントの活用、若手研究者のセミナー企画への参画

Antarctic Science、Polar Journal、Polar Record、Earth System Science などの学際的学術誌への共著論文掲載

ホワイトペーパーを作成、ATCM に提示。研究成果の社会実装



適切な課題設定・社理連携と国際交流に基づく共同研究・質の高い研究成果の創出の好循環

100 年持続可能な世界最先端の
南極ガバナンス研究を遂行するグローバル研究拠点の確立